

首都大学東京が、ECO-TOPプログラムで 第1号の認定を受けました

～「自然・文化ツーリズムコース」及び「観光科学専修」～

首都大学東京が、平成 20 年度に新たに設置する「自然・文化ツーリズムコース」と「観光科学専修」は、東京都が創設した自然環境保全を担う人材育成・認証制度における「ECO-TOPプログラム」第1号として認定を受けました。

これにより、20 年度からの入学者が指定された科目を履修すれば、卒業・修了と同時に、プログラム修了者として東京都に登録されることになります。

認定を受けたコース等では、既存の学問体系にとらわれない幅広い知識と現場に根ざしたフィールドワークを融合した実践的なカリキュラムにより、自然環境分野で幅広い専門知識とアクティブな行動力を兼ね備えた人材を育成していきます。

<認定を受けたコース等の名称>

- 【学 部】 都市環境学部都市環境学科 自然・文化ツーリズムコース
*平成 20 年度以降の入学者から 3 年進級時に選択するコースとして設置
- 【大学院】 都市環境科学研究科地理環境科学専攻 観光科学専修
*平成 20 年度新設

<カリキュラムの特徴> ※詳細については、別紙を参照してください。

- 地理学や生態学を基礎とした自然環境の保護・保全と適正利用に関する科目を中心に、観光政策、地域計画や環境関連の法規、倫理などの人文・社会科学分野についてもバランス良く学ぶ講義
- 現場におけるコミュニケーションや安全管理、救急救命に関する基礎的な演習から環境生態、地域環境分野の実証的な野外実習にわたる豊富なフィールドワーク
- 自治体、一般企業と環境教育をテーマにした NPO、3 箇所の立場の異なる現場を通じて実習を行うインターンシップ
- 各人の問題意識に沿って実施した調査、研究を演習形式でプレゼンテーション

<育成する人材像>

- 自然環境の保護・保全と適正利用に関するジェネラリスト
- 調整能力を持つ者として幅広い視野・知識・技能を備えた人材
- ローカルな現場からグローバルに問題認識することのできる人材

※「自然・文化ツーリズムコース」及び「観光科学専修」では、自然環境関係のほかにも、観光計画、観光まちづくり、観光情報等の分野を学ぶことができます。

※東京都環境局から、「自然環境保全を担う人材育成・認証制度 ECO-TOP プログラムの認定について」が、同時に発表されています。

[問い合わせ先]

首都大学東京経営企画室教育研究支援課

042-677-1312

<カリキュラム内容について>

都市環境学部都市環境学科自然・文化ツーリズムコース

042-677-2761

自然環境保全のための人材育成(ECO-TOP)プログラム概要

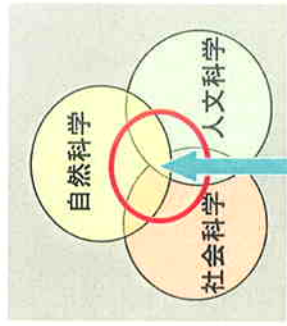
○プログラムが目指す人材像

- ・自然環境の保全を直接的、間接的に幅広く担っていくことを前提として
- 1 自然環境分野に軸足を置いたジェネラリスト。
- 2 グローバルに物事を考えることが出来る人。
- 3 自然環境に関する幅広い専門知識を有し、応用能力がある人。
- 4 説明・コミュニケーション能力とリーダーシップがある人。
- 5 現場感覚を持ち、積極的に行動できる人。

人材育成の基準

I カリキュラム

30単位以上



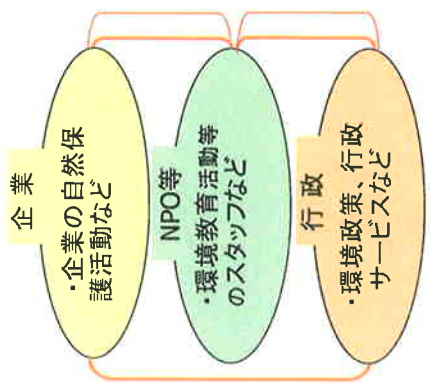
2	導入の科目(概論)	演習・実習型 6単位以上
6	自然科学分野	
6	人文科学分野	
6	社会科学分野	
2	まとめ、修了判定を行う科目	

上記数字は各分野の最低限度のカリキュラム数

II インターンシップ

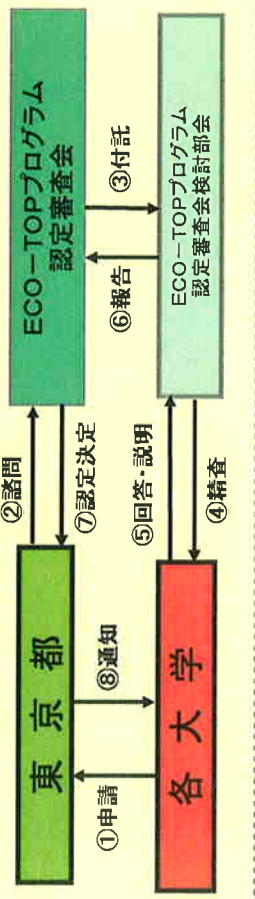
4単位以上

〈事前準備〉
・大学の実施計画・指導



〈事後のまとめ〉
・ブレゼン及びディベート等による評価

ECO-TOPプログラム認定の手続き



育成するしくみ(大学)

- 育成する人材の明確なコンセプト(大学ごとの特色を活かした人材育成)
- 既存の学問体系にとらわれない
- 単位・科目の設定
- 企業、NPO、行政等が協働したインターンシップの実施
- ・都への申請

認定のしくみ(都)

- 審査会で課程を認定「ECO-TOPプログラム」
〈自然環境保全のための人材育成プログラム〉
- 首都大学東京【学部】都市環境学部都市環境学科自然・文化ツーリズムコース
- 【大学院】都市環境科学研究科地理環境科学専攻観光科学専修 第1号認定

今回の手続き

- プログラム修了者を登録
〈都知事名でシリアル番号交付〉

- 修了判定の実施
・都への申請

- 修了者へのフォローアップ
〈修了者・各主体の連携強化〉
〈知識の更新とレベルアップ〉

- 修了者の輩出

H22年
4月～

首都大学東京「ECO-TOPプログラム」カリキュラム

修了要件： 合計34単位以上を取得

分類	講義概要	科目名		
		[学部] 自然・文化ツーリズムコース	[大学院] 観光科学専修	
エコトップ総合科目	自然環境の保護・保全と適正利用に関する導入科目 【必修】	ECO-TOPプログラムの導入科目として、自然環境保護・保全と適正利用に関する基礎的概念を理解する。	自然ツーリズム概論Ⅰ	自然ツーリズム概論Ⅰ
	自然環境の保護・保全と適正利用に関するまとめ科目 【必修】	プログラム全体の最終的なまとめとして、各自の関心やテーマに沿って実施した調査、研究のプレゼンテーションを中心に演習を行う。	自然環境管理学	自然環境管理学
	野外での安全管理や救急救命に関する基礎的な実習 【必修】	環境保護・保全に関連する業務を遂行する上で必要な安全管理や人命救助・救護の知識を、講義・実習等によって体得する。	安全管理・野外救急救命法 (1)	安全管理・野外救急救命法 (1)
自然科学	環境保護・保全と適正利用に関する科目 【★印の科目は必修 その他の科目は選択】	自然環境や環境資源の保護・保全と適正利用に関する持続システムと管理システムの理論と実践を、講義と実習で学ぶ。	★自然ツーリズム概論Ⅱ ★自然ツーリズム学プロジェクト演習	★自然ツーリズム概論Ⅱ ★自然ツーリズムセミナーⅠ ★自然ツーリズムセミナーⅡ ★自然・文化ツーリズム学特別講義Ⅰ ★自然・文化ツーリズム学特別講義Ⅱ (1) ★自然・文化ツーリズム学野外実習Ⅰ (1) ★自然・文化ツーリズム学野外実習Ⅲ (1)
	地理学・地学に関する科目 【いずれかの科目を選択】	地表上の諸環境を、地理学・地学的視点から、その構成要素ごとに学び、環境に関わる業務の遂行に必要な基礎知識を幅広く身につける。	地域環境学Ⅰ 地域環境学Ⅱ 地域環境学演習Ⅰ 地域環境学演習Ⅱ 地域環境学野外実習 (1) 自然環境地理学 生態地理学	地域環境学特論Ⅰ 地域環境学特論Ⅱ 地域環境学Ⅰ 地域環境学Ⅱ 自然環境地理学 生態地理学
	生物学・生態学に関する科目 【いずれかの科目を選択】	生態系を構成している動植物の生態や分類方法について幅広く学び、環境に関わる業務遂行に必要な基礎知識を幅広く身につける。	環境生態学Ⅰ 環境生態学Ⅱ 環境生態学演習Ⅰ 環境生態学演習Ⅱ 環境生態学野外実習 (1) 生態学概論1 生態学概論2 生物学概説Ⅰa 生物学概説Ⅱa	環境生態学特論Ⅰ 環境生態学特論Ⅱ 環境生態学Ⅰ 環境生態学Ⅱ 生態学概論1 生態学概論2 生物学概説Ⅰa 生物学概説Ⅱa
社会科学	環境や地域の観光政策・計画に関する科目 【★印の科目は必修 その他の科目は選択】	自治体政策や観光開発・企画・運営の概念や実践方法を学び、主に開発者・利用者側の視点からツーリズムのあり方を学ぶ。	★観光論Ⅰ ★観光計画学Ⅰ 観光資源論 観光地理学	★観光まちづくり特論Ⅰ ★観光計画特論Ⅰ ★自然・文化ツーリズム学野外実習Ⅱ (1) ★自然・文化ツーリズム学野外実習Ⅳ (1) 観光地理学
	環境に関する法規、経済学に関する科目 【いずれかの科目を選択】	自然環境保護法などの環境に関連する法規を通じ、法制度の立場から環境問題を捉える視野を養う。また、環境税や排出権取引などの具体例から、環境問題を経済学的視点で捉える方法を学ぶ。	自然環境と法制度 自然環境と経済	自然環境と法制度 自然環境と経済
人文科学	地図の基礎的な理解と利用に関する科目 【★印の科目は必修 その他の科目は選択】	各種デジタル地図や地理情報媒体 (GIS, GPS) を含む、民衆地図の概念的理解、作図・利用方法およびそれを用いた教育方法の学習。また、解析技術の修得を目指す。	★地図学 観光情報学	★地図学 観光情報・コンテクスト特論Ⅰ
	環境倫理に関する科目 【必修】	生物の世界のつながりの中で、あるいは、歴史や文化、社会とのつながりの中で、技術の適正さとは何かを考えることから、環境問題を倫理的に捉える眼を涵養する。	自然環境と倫理	自然環境と倫理
	コミュニケーションに関する科目 【必修】	いかにリーダーシップや協調性を発揮して、組織や集団内の関係を維持しながら、自己表現や他者理解をしていけばよいのか、また観光客などの他者に対して、いかに接すれば効果的に意思を伝達できるのかについて学ぶ。	コミュニケーション学	コミュニケーション学
インターンシップ 【必修】	自治体、一般企業と環境教育をテーマにしたNPO、3箇所の立場の異なる現場を通じて実習を行う。	インターンシップ (4)	インターンシップ (4)	

※科目名に付した () 内の数字は、単位数を示す。表示のない科目は、すべて2単位 【半期15週の講義で2単位となる。】